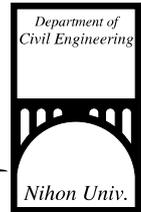


2007年2月号

# シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方は購読を希望される方は、必要事項(卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス)明記の上、[mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp](mailto:mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp)で購読申し込みをしてください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

## 帝京高等学校～高大一貫教育プログラム～

高大一貫教育プログラムに基づいて17名の帝京高等学校の生徒が本学科を訪れ、教室主任岸井隆幸教授が土木工学科の教科内容の説明とコンクリート実験室、水理実験室等を案内しました。

土木工学科の高大一貫教育プログラムは、理工学部土木工学科志望の生徒全員を対象としたプログラムとして、前期(4月～9月)には土木工学の役割および本学の土木工学科の特徴・教員の独自の研究展開に関する公開授業(特別講義)を行うことです。特に、高校2年生向けとして土木工学科の目指す方向を知るための内容を紹介し、高校3年生向けとしては、生徒の目的意識を向上させるため、専門分野の魅力および役割を紹介しています。

そして、理工入試フォーラムやオープンキャンパスを通して、ミニ講義・研究紹介の内容を聴講してもらい、後期(10月～3月)には、高校3年生向けの特別講義を設置し、研究紹介・教員紹介をビデオで提供しています。

さらに、実験・実習施設を見学していただき、土木工学科についてレポートを提出していただき、今後の土木工学科の資料にしています。特に、土木工学科に興味をもつ(土木工学科を希望する)生徒を対象としたプログラムとして、土木工学科設置科目「特別講義」の受講や、学園祭期間中に研究室を訪問し、先生との直接対話を通して理工学部土木工学科の魅力を知ってもらう企画も実施しています。

また、実験体験学習を実施し、高校では経験できない実験を高校生に体験してもらい実験の重要性・面白さを知ってもらうため、実験体験学習の事前学習を合わせて実施するなどの取り組みを行っています。

## 第2回土木工学科就職懇談会

来る2月8日(木)13時半より、駿河台校舎1号館6階CSTホールを中心に、第2回土木工学科就職懇談会を開催する予定です。今回の就職懇談会では、今春卒業予定のOBの体験談を在校生に語っていただく予定にしております。

## 平成 18 年度 技術士第一次試験合格者が発表される

昨年 10 月 9 日(月)に平成 18 年度技術士第一次試験が実施され、本学在校生を含めて多数の卒業生が合格しました。

### 合格者 喜びの声



#### 学部 3 年 小嶋 祐 【上下水道部門】

昨年、私は技術士第一次試験上下水道部門に合格しました。合格した瞬間は、疑いながらも、学部 1 年生のときから目指してきたことが実現できた達成感とその苦労が報われた瞬間に酔いしれました。その結果を、私の所属するゼミの田中和博教授に報告しました。先生から「おめでとう」と言われたときは、本当に嬉しかったです。今後は、その資格を有する者として、今まで積み上げた知識を活かせる知恵に変えて、役立てていきたいです。



#### 大学院 2 年 吉野 隆志 【建設部門】

入社前になんとしてでも合格したいと思い頑張りました。去年失敗し 2 回目の受験でしたが、ゼネコンに就職する自分にとって OB に話を聞いても、働いてから勉強をする時間が限られると聞いていたのでなんとしてでも、今年合格したいという気持ちで受験に望みました。受験後の手ごたえは、全くなかったのですが、広く浅く勉強したせいか去年と比べ選択肢を絞り込めたような気がします。今後、2 次試験はもちろん上下水道部門や 1 級土木施工などの試験に向けて頑張りたいと思います。

## 平成 19 年度 入試情報

### ◇ 一般入学試験(A方式)

- ・試験日：2月11日(日)
- ・出願期間：1月8日(月)～2月5日(月)

### ◇ 大学入試センター試験を併用した試験(CA方式)

- ・試験日：1月20日(土)、21日(日)
- ・出願期間：2月13日(火)～2月28日(水)

### ◇ 大学入試センター試験を利用した試験(C方式第1期)

- ・試験日：1月20日(土)、21日(日)
- ・出願期間：1月8日(月)～1月20日(土)

### ◇ 大学入試センター試験を利用した試験(C方式第2期)

- ・試験日：1月20日(土)、21日(日)
- ・出願期間：2月22日(木)～3月12日(月)

詳しくは以下のアドレスより、理工学部ホームページ入試情報をご覧ください。

<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/nyushi.html>

## 最近の教員活動状況

### 島崎敏一教授の出張報告(ポルトガル)

2006年12月2日から1カ月間ポルトガルの公共交通の調査に行ってきました。

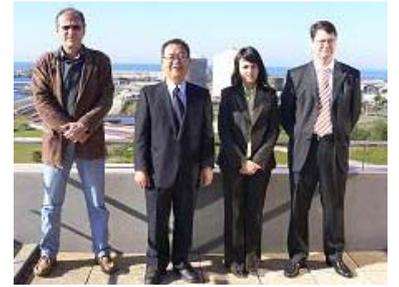
ポルトガルは、日本では名前はよく知られていますが、詳しいことは案外知られていないように思います。首都リスボンは、北緯38度、西経9度にあります。ポルトガルの面積は日本の1/4、人口は1/10、GDPは1/20、1人あたりGDPは1/2くらいです。主な都市は、リスボンとポルトです。本土の他に、アソーレス諸島とマデイラ諸島も領土ですが、これらは、大西洋上にあり本土の西約1000kmほどの所にあります。世界遺産は、文化が12件、自然が1件あります。日本大使館、リスボン工科大学(Instituto Superior Tecnico)、シネス港、公共事業運輸通信省などを訪問するとともに、各地で公共交通機関を見てきました。



リスボンの路面電車(上)  
特急列車(下)



リスボンは、交通機関の博物館といわれるほど、いろいろな種類があります。バス、地下鉄、電車はもちろんですが、路面電車、エレベーターなども日常使われています。これらの交通機関は、大部分が市内では一律の運賃で分かりやすく、一日券(約500円)などがあり利用しやすくなっています。町中のごみ箱も分別するようになっていること、風力発電が各地で行われていること、アソーレス諸島のサンミゲル島では、地熱発電が35%をまかなっていることなど、環境に対する配慮もかなり行われているのが印象に残りました。



(上)公共事業運輸通信省にて  
(下)シネマ港にて  
ともに左より2人目が島崎教授

野村卓史教授が、12月13日、14日に京都大学防災研究所において開催された台風の機動的観測に基づいた予報精度の向上と災害軽減に関する研究集会に出席されました。

梅村靖弘教授が12月16日～17日に北海道大学大学院工学研究科資源開発工学名和研究室で行われた、土木学会コンクリート小委員会混和材料を使用したコンクリートの物性変化に関する会議に出席されました。

安田陽一教授が1月16日～17日に北海道庁水産林務局治山課及び、寒地土木研究所河川生態の魚道整備の会議に出席されました。

山敷庸亮専任講師が12月13日～14日に総合地球環境学研究所にて、研究発表を行いました。

長谷部寛助手が、12月18日～20日に名古屋大学において開催された、第20回数値流体力学シンポジウムにおいて論文「物体周りの乱流の数値シミュレーション」に関する論文発表を行い、同分野で先端的な研究を行っている研究者と、多くの意見交換を行いました。

## 土木学会平成 18 年度全国大会について

平成 18 年 9 月 20 日～22 日に立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて実施された第 61 回年次学術講演会の優秀講演者が発表され、本学科の教員も受賞された。



仲村助手



高橋助手

### 【優秀講演者】

仲村 成貴

『未知の地動入力に対する構造物の動特性推定』

高橋 正行

『階段状水路における Nappe flow のエネルギー評価方法』

## 学生の活躍

### タッチワールドカップ世界 4 位！！

南アフリカ共和国にて開催された「第 6 回タッチワールドカップ 2007」に、「Men's チーム」の日本代表選手として大学院 2 年、畑迫一毅さんが出場しました。

### 大学院 2 年 畑迫 一毅 談話

2007 年 1 月 17～21 日に南アフリカ共和国で開催された TOUCH WORLD CUP 2007 に Men's open の日本代表として参加しました。この大会は、F.I.T. (The Federation International Touch) 主催の 4 年に一度開催されるタッチラグビーの世界一を決める大会で、今回は、17 ヶ国の参加の中から Men's・Women's・Mixed・Men's30・Mixed30・Men's35/40 の 6 つのクラスで世界一を争いました。日差しが強く暑い中、我々日本 Men's チームは、世界の並み居る強豪と白熱した緊張感のある試合を繰り広げ、予選を 3 勝 4 敗の 5 位で予選を通過。決勝トーナメント 1 回戦では、開催国の南アフリカを終了間際のトライで突き放し 1 点差で準決勝に進出しました。ですが、準決勝で世界一の豪州、3 位決定戦でレバノンに敗れ、惜しくも 4 位という結果となりました。あと一歩でメダルを逃しましたが、これもチームが一丸となって挑み、世界に日本を知らしめた結果であります。私は、この大会に日本 Men's で出場できたことを誇りにするとともに多くの方に支えられていることに感謝したい。そして、4 年後の大会へ忘れ物を取りに今後の日々の練習に励んでいきたいです。

■F. I. T (国際タッチ連盟) <http://www.internationaltouch.org/>

■日本タッチ協会 <http://japantouch.jp/>



日本代表チーム (本人:上段左端)

### 『コベルコ建機・フォトコンテスト』写真展入賞報告

このフォトコンテストの題材は、コベルコの建設機械。このコンテストは初めての企画であり、日本を始め、中国、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、オーストラリア、イタリア、フィリピン、インド、ロシアの国々から 1000 点近い作品点数となり、本学科 4 年生の杉山誠君が社長賞(SH 部門)を受賞しました。



受賞作品

「日本一の“富士山”と日本一の建機“コベルコ”」